



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日 令和2年7月1日
発行者 校長 芝田 智昭

No. 350 7月号

初めての7月

先週から6時間授業が始まりました。そして今週から、分散して食べていた給食を教室で全員そろって食べるようにしました。校医の先生の助言を受けながら、感染予防に万全を期しておいしくいただいています。学校は徐々に本来の姿に戻りつつあります。

“胎動”という言葉があります。元々は母体内で胎児が動くことを指しますが、「新しい物事が内部で動き始めること」という意味があります。6月はこの時期だったと感じています。1日の始業式・入学式から始まり、午前だけの分散登校、給食ありの分散登校、そして5時間授業を1週間続け、先週からはほぼ平常通りとなりました。感染予防を第一優先としつつ子どもたちの在校人数を増やし、在校時間を増やし、教育活動の幅を広げました。まさに、学校内部で学びの胎動が少しずつ確かになっていきました。

今日から始まる7月は、これまでに経験したことのない初めての7月です。1か月間授業日となり、その間、感染予防の徹底が求められるからです。教育活動に様々な制約を受けることは事実です。しかし、一人ひとりの子にとってかけがえのない時間、一生に1回の学年なので、6月の胎動を土台として、7月は子どもたちが“躍動”する時期にしなければならぬと考えています。

授業の中では、グループ活動や話し合い活動は思うようにはできませんが、全体の場で意見を述べたり、感染予防策を講じた環境の中で創作活動に取り組んだりしています。また、広い場所で間隔を取って歌を歌ったり、密集しないよう配慮して体を動かしたりもしています。委員会活動や学級活動などの特別活動の中で自ら考え行動する力を伸ばしたり、通常の学級とわかき学級との交流及び共同学習を実施し共生の心を育んだりするなど、これまで行っていた活動を再開しています。学校ではこうした教育活動を通して、子どもたちの思いや可能性を引き出し伸ばしていく指導により、子どもたちが“躍動”する7月になるよう努めていきます。

尾久西小では、すでにお知らせしたように、授業時数確保のために6時間授業の日を可能な限り増やし、土曜授業も4時間行います。また都民の日も授業日とし、終業式や始業式の日も5時間または6時間授業とします。こうした工夫をしても、今後の状況次第では授業時数の面で安心はできません。やはり、教育活動の質を高めることは不可欠です。限りある時間（量）の中で、いかにして指導の質の向上を図るかを常に念頭に置き、授業改善を進めていきます。